

## 〈研究分野〉

### ライフサポートファイルを活用した地域の

### 関係機関との連携の在り方

～ライフサポートファイルを活用するための環境づくり～

千葉県立長生特別支援学校

電話 0475-42-2470

FAX 0475-42-7517



県立長生  
特別支援学校

## 研究のポイント

今年度より、長生郡市総合支援協議会が中心となって作成した長生郡市共通のライフサポートファイルの配付が始まった。センター的機能の充実に向けて、ライフサポートファイルを有効なツールとして、より良い活用方法や活用しやすい環境づくりを模索しながら、地域の関係機関との連携の在り方を検証した。

### ■学校の概要 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/chosei-sh/>

本校は、昭和48年に千葉県立桜が丘養護学校茂原分校として誕生し、昭和52年に茂原高校旧校舎を仮校舎として「千葉県立長生養護学校」としてスタートした。昭和53年に現在の校舎に移転し、平成19年度から「千葉県立長生特別支援学校」となった。本校は知的障害と肢体不自由の二つの障害種を教育部門としており、小学部、中学部、高等部(普通科)が設置されている。学区は、知的障害が一宮町、長生村、睦沢町、長柄町、長南町の4町1村、肢体不自由はそこに勝浦市、いすみ市、大多喜町、御宿町が加わり、広範囲にわたる。知的障害、肢体不自由、複数の障害を併せもつ重複障害など様々な障害のある子供たちが在籍しており、一人一人の障害に応じたきめ細かい指導支援を行っている。

### ■研究課題

地域の特別支援学校として、センター的機能の充実を図っていくために、ライフサポートファイルの有効な活用方法を検討し、関係機関とのより良い連携の在り方を明らかにする。

### ■研究の目的と方法

#### 【目的】

センター的機能の充実に向けて、ライフサポートファイルの活用方法を探り、地域の関係機関との連携を深めていく。

#### 【方法】

- (1)ライフサポートファイルの配付(保護者・職員)
- (2)ライフサポートファイルに関するアンケート調査(保護者・職員)
- (3)ライフサポートファイルの周知と理解促進のための研修会の実施(保護者・職員)
- (4)関係機関との情報共有・意見交換
- (5)成果と課題の整理

## ■研究概要

### (1) 本校での取組

#### ○保護者に対する取組

- ・ライフサポートファイルができた経緯や活用方法について文書を配付して周知した。
- ・初回の個別面談の際に、担任からライフサポートファイルを各家庭に配付した。
- ・ライフサポートファイルの目的や活用の仕方についての研修会を行った。
- ・PTA 進路学習会でライフサポートファイルの有用性について説明した。
- ・ライフサポートファイルの活用状況や改善点等についてアンケート調査を実施し、結果をまとめた。

#### ○職員に対する取組

- ・年度当初に全職員にライフサポートファイルを配付し、形式や内容についてのアンケート調査を行い、その結果を文書で報告した。
- ・ライフサポートファイルが導入された経緯や活用状況、そして本校の取組みについての研修会を実施した。
- ・保護者向け研修会の内容や参加者からのアンケート結果を報告した。
- ・個別面談の際に保護者にライフサポートファイルの持参を促し、記入や活用の状況を学校と共有できるように依頼した。
- ・年度末に、面談時や保護者の来校時などにおけるライフサポートファイルの活用状況に関するアンケートを行い、その結果を報告する予定である。

### (2) 関係機関との連携

#### ○長生郡市総合支援協議会

- ・長生郡市総合支援協議会の療育作業部会に参加し、本校での取組内容や進捗状況を報告するとともに、ライフサポートファイルの活用を進めるための意見交換や情報交換等を行った。

#### ○放課後等デイサービス事業所

- ・放課後等デイサービス事業所が主催する学習会に参加し、本校の取組について説明した。
- ・毎年本校で開催している放課後等デイサービス事業所合同連絡協議会のときに、ライフサポートファイルに関する内容を取り上げ、ファイルの活用状況や課題について情報共有した。

#### ○学区の町村の教育委員会や福祉課、小学校、中学校

- ・年度初めの挨拶回りの際に配付対象者や配付状況について確認し、情報共有した。
- ・教育相談や学校支援の要請があった際には、ライフサポートファイルを持参して紹介するとともに、活用状況を確認した。
- ・ライフサポートファイルの周知について相談のあった機関に対して、その方法や内容について本校の取組みを伝えた。

### 【研究の成果】

- ・アンケートの結果、ライフサポートファイルに記入したり活用したりしている保護者が想定より多いことが分かり、ライフサポートファイルに対する意識を高めることができた。
- ・療育作業部会でファイルの活用が進んでいる地区の取組みを紹介したことで、ニュースレターの配付やオンラインイベントの計画など、関係機関が協力してライフサポートファイルの活用を進めようとする機運が高まった。
- ・学区の教育委員会から、配付したライフサポートファイルの周知方法について相談を受けて助言をした結果、ホームページ上にライフサポートファイルの内容や活用方法についての紹介記事を掲載し、周知活動を始めた自治体が出てきた。

### 【課題】

- ・保護者がファイルに関係機関に持参する機会は少なかったため、今後も長生郡市連携協議会と連携しながら研修会を実施したり最新の情報を発信したりする必要がある。
- ・学区の関係機関に定期的にファイルの配付や周知の状況について確認し、療育作業部会で情報交換していく中で、それらの内容について、本校を含めた他の取組みについて、随時紹介していくことが必要であると感じた。
- ・今後も関係機関と連携を深める中で、生涯にわたって一貫した支援をするツールとしてのライフサポートファイルと個別の教育支援計画との関連やつながりを検証していく必要性を感じた。

### 関連資料

- ・ライフサポートファイルの記入と活用状況に関する保護者へのアンケート結果

## 【講評】

### 長生特別支援学校の実践について

特別支援学校としての役割であるセンター的機能を生かし、ライフサポートファイルを活用した関係機関との連携の在り方についての研究に取り組んでいただきました。

市町村によってライフサポートファイルの配付対象者や方法が異なるという地域の実情がある中、学校として何をすべきかという方向性を明確に示した研究でした。同校の保護者や教員に同ファイルの有用性を周知した後、実際に活用をとおして得た成果や課題等の収集及び整理は、よりよい活用のためのヒントにつながったと考えます。また、郡市総合支援協議会の中の療育作業部会で取り組んだ「ニュースレター」の配付やオンラインイベントでの提案等の活動は、他の地域や特別支援学校にとって大いに参考になっていくものと考えます。

今後は、関係機関とのさらなる連携をめざし、同ファイルとの関連やつながりをもたせた個別の教育支援計画の検証及び実用的な活用の発信ができることを期待しております。